

鎮守の森が教えてくれる 生き物の世界



嬉しい時悲しい時に 鎮守の森に

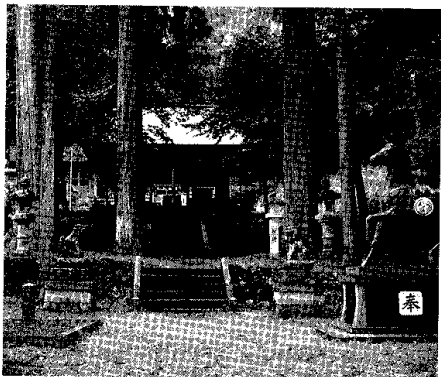
まずは、あなたの町にある鎮守の森へ出かけてみよう。鳥居をくぐると、石畳の参道がまっすぐに続いている。つきあたりに拝殿が望める。その奥には本殿が建っている。まわりは深い緑に包まれ、爽とした雰囲気だ。わたしたちの祖先は、うれいしときにも、悲しいときにも鎮守の森に出かけた。心のよりどころにしてきた。氏神様に豊作を祈り、健康を喜び、子どもの成長を祝った。初参り、七五三、結婚、還暦と、人生の節目に鎮守の森へお参りした。初詣、オコナイ、春祭り、お盆、秋祭りと、季節の節目に鎮守の森がハレの場にもなった。

いまはどうだろう。初詣といえば、何十万人という人出のある遠い神社へ、わざわざ車で押しかける。土地の氏神様よりも、マスコミが伝える神様がもてはやされる。七五三や結婚式だって、似たようなもの。村の祭りも、現代の生活に合わないという簡素化され、ハレの場がなくなっていく。その代わり、街やショッピングセンターへ行けば、一年中ハレの場が味わえる。でも考えてみよう。大阪のUSJにどんなアミューズメントがあるかは知っていても、自分の町にある鎮守の森の春祭りの出し物は知らない。コンビニのおにぎりは食べるけれど、神社に供えるちまきの味は知らない。そういう生活が、ほんまに幸せなんだろうか。そんな疑問を感じた人は、いますぐ子どもといっしょに鎮守の森を訪れてみよう。わたしたちの暮らしを見つめ直すきっかけが、きっと鎮守の森で見つかるはずだ。



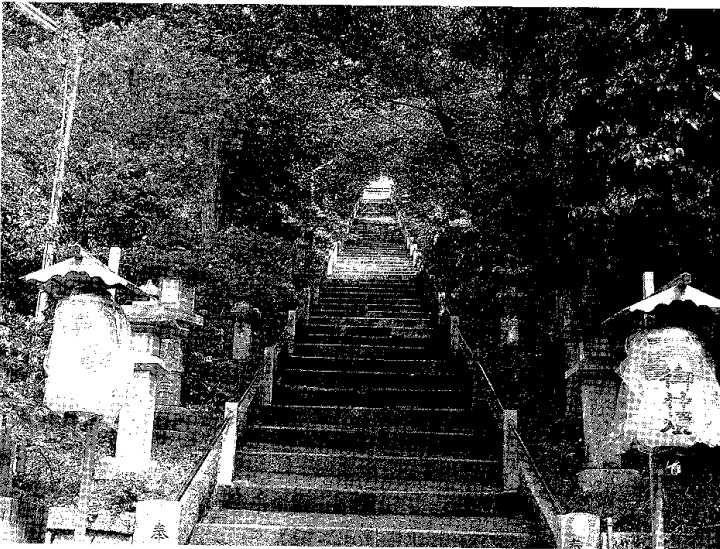
湖北の野は深い森で 覆われていた

さて、鎮守の森にやってきたあなたは、シーンと静まり返った雰囲気にとろとろするだろう。



▲古来の神社の建築様式が見られる和泉神社（湖北町上山田）。

▲本殿は、長い石段の上に祀られる。熊岡神社（長浜市常喜町）



先祖様たちも、同じ感慨にうたれただろう。古来、わたしたちの祖先は、山や川、木や岩に神様が宿ると考えた。いまでも、大きな岩や巨木に、しめ縄が張ってあるのを見かけることがある。鎮守の森に社殿が建てられたはじめたのは、七世紀以後と言われる。それまでは、森全体

が神様の住む場所だった。社殿が建てられる以前、そこにはストーンサークルのような石の輪や小さな祠があったに過ぎない。鎮守の森の中心が、祈りの場所だったのだ。ところが、社殿が建てられるようになると、いつしかその建物が神様の鎮座するところになっていく。そして、鎮守の森は徐々に小さくなっていった。ひたすら田畑に開墾されていったわけだ。

紀元前三世紀ころ、米を持った民が大陸からやってきて稲作を始めるまで、日本のほぼ全域は深い森だった。鎮守の森は、そんな太古の森の姿をとどめる証なのだ。千数百年前、湖北の野山一面が、深い森でおおわれていたなんて、想像するだけでワクワクしてくる。



神様の住む森は 木を伐らなかつた

そんな空想をふくらませながら森のなかに立っているあなたは、だんだん静け



▲注連縄がかけられた境内の石。川道神社（びわ町川道）。

**大浴場(露天風呂)と
大会議室(AV機器完備)
を新設しました**

体験宿泊プランも企画しました。
お越しをお待ち申し上げます。

国民宿舎 つつらお港

伊香郡西浅井町菅浦580番地
TEL:(0749)89-0350
FAX:(0749)89-1363

特集②神さまと祭り

見に行きたい 神社の祭



湖北には、オコナイと呼ばれる神事が連続と伝承されていますが、神社ではほかにも、五穀豊稔の感謝、雨乞いなど、くらしに強く結びついたさまざまなお祭りがおこなわれています。主な神社と祭りを紹介しましょう。(祭りの名称は、一般的な呼び方を挙げました)

◀「茶わんまつり」にて



▲あどけないお稚児さんの行列
◀神輿が担がれ、曳山も出される。

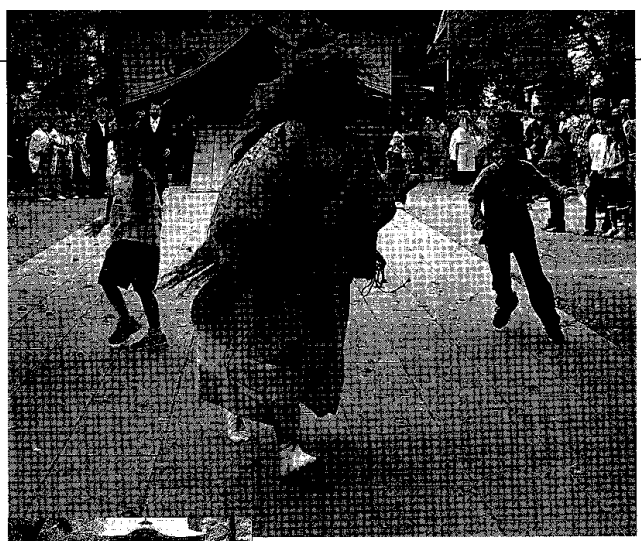
七歳の男児たちが、母衣を背につけた甲冑姿の武者となり、神輿、はさみ箱持ち、稚児とともに、午後二時半ごろから町内を巡行。その後、総持寺仁王門前まで渡御する。門前では、住職による読経、神官による祝詞がおこなわれ、四時頃還御。神輿は、長浜の曳山制作者である藤岡和泉の手によるもの。山蔵前には、曳山「颯颯館」が飾られる。昭和二十六年ごろまでは、この上で子ども歌舞伎が行われていた。



日枝神社 (長浜市富司町)

春の例祭

五月四日



◀境内を飛びまわる天狗の舞

足柄神社 (長浜市七条町)

春祭

五月五日

稚児行列があり、境内では天狗がササラを手に飛びまわる。町内を練り歩いた御輿が神社に還御すると、祭りのクライマックス。面をつけた尉と姥、獅子舞が鳥居の前で迎える。御輿が何度も境内を練る様はとても勇壮。

尉と姥、天狗、獅子舞などは、中世に流行した田楽の名残をとどめる貴重な芸能。中世以来、七条町は能面師の里でもあった。



▲尉と姥が御輿を迎える



▲境内いっぱいになって太鼓踊りを奉納

豊年を祈願する太鼓踊りは、古くから伝承される雨乞いと返礼の踊り。正午に集合して支度を整え、会議所前の広場で一踊り。縦縞のカルサン(もんべに似た一種の袴)に緋色の弓箆手、背中に金幣をつけた太鼓打ちの踊り手を中心に、鉦打ちや瓢振りなどの行列が、道行きの唄、多良福の唄、長唄などを歌い、踊りながら八幡神社に向かう。

八幡神社 (山東町朝日)

豊年太鼓踊り

十月十日

●問い合わせは各市町の観光協会または文化財担当へ●

長浜市	0749-55-5524	近江町	0749-52-3114	高月町	0779-83-3111
日原町	0749-55-2140	栗田町	0749-74-3020	木之本町	0779-82-4111
伊吹町	0749-58-1121	湖北町	0749-78-1001	余呉町	0744-86-5065
赤原町	0749-52-1551	伊吹町	0749-72-5221	西郷町	0749-89-0531

- ①恩海神社 (長浜市寺田町)
- ②平瀬神社 (余呉町下余呉)
- ③等波神社 (木之本町田部)
- ④大浴神社 (高月町重利)
- ⑤櫻崎神社 (高月町東高田)

- ①ひえ ②おおきみ ③やあい(やわい) ④にゅう ⑤いしつくりたまつくり ⑥おもて ⑦のぎた ⑧うぶすな ⑨あたこ ⑩とどろき ⑪かやどう ⑫ひさき ⑬やお ⑭ひるこ ⑮ひなで